

コーヒー焙煎新時代の幕開け 環境配慮型コーヒー焙煎技術が本格稼働

今春よりカーボンニュートラルの実現に向けた新たなコーヒー焙煎技術が本格稼働する。焙煎時の熱源として主に使われている天然ガスに代わるものとして、UCCグループでは「水素」を、石光商事のグループ会社であるアライドコーヒーロースターズは「バイオ燃料」を、抽出後のコーヒー粉をアップサイクルした固形燃料「コーヒーペレット」を使用する。アップサイクルの方法は違えど、どちらも世界に類を見ない新たな焙煎技術であり、コーヒー業界ならではの二酸化炭素(CO2)排出削減の取り組みと言える。この春の取り組みは商用化に向けた第一歩ではあるが、これを機に化石燃料からの切り替えが進めば、将来振り返ったときに2025年が「環境配慮型コーヒー焙煎元年」と呼ばれる出来事になるかもしれない。

6月に120kgグリーン焙煎機導入

「脱炭素の実現に向けて将来的に業界全体へ波及」を掲げ、アライドコーヒーロースターズは、6月に「グリーン焙煎」システムを開発した。従来の焙煎機と異なり、バイオ燃料「バイオコーク」を使用し、排出されるCO2を削減できる。120kgの焙煎機を導入し、7月以降に本格稼働させる。

石光商事グループでは、地球温暖化対策ならびに循環型リサイクルの取り組みの一環として、2019年より近畿大学と共同で「グリーン焙煎」システムを開発。バイオ燃料「バイオコーク」を製造。翌年にはバイオコークを熱源として焙煎した「一杯抽出型RC『Goal Goals Co』」を発売した。



グリーン焙煎のために開発した30kgテスト焙煎機(写真奥)と燃焼炉

「脱炭素の実現に向けて将来的に業界全体へ波及」

アライドコーヒーロースターズは、6月に「グリーン焙煎」システムを開発した。従来の焙煎機と異なり、バイオ燃料「バイオコーク」を使用し、排出されるCO2を削減できる。120kgの焙煎機を導入し、7月以降に本格稼働させる。

石光商事グループでは、地球温暖化対策ならびに循環型リサイクルの取り組みの一環として、2019年より近畿大学と共同で「グリーン焙煎」システムを開発。バイオ燃料「バイオコーク」を製造。翌年にはバイオコークを熱源として焙煎した「一杯抽出型RC『Goal Goals Co』」を発売した。

排出時および焙煎時のCO2を大幅に削減できることが特長だ。コーヒー飲料の製造工場に乾燥機を置けることで、サーキュレーターを回収でき、サーキュレーターは、全体的なソリューションになると考えている。

旧東京アライドコーヒーロースターズと合併してアライドコーヒーロースターズとなる前の旧関西アライドコーヒーロースターズ2排出量(焙煎豆および廃棄するコーヒーグラウンズ)の削減(輸送も含む)は、天然ガスの使用による一般的な焙煎よりもクロロドナサーキュレーター内全体で約50%以上削減できる見通しだ。

環境省補助金事業で開発していることを明かした。120kg焙煎機の稼働に使用している石崎室長は、「サーキュレーターエコノミーの実現に向けたマイルストーンの初期段階」と強調。グリーン焙煎システムを広く活用する必要があることを示した。また、26年の竣工を目指して兵庫県小野市で建設を進めている新工場にグリーン焙煎用の250kg焙煎機を導入予定。



焙煎機と同様に、コーヒーペレットを熱源とする乾燥機自体は完成しており、現在は設置場所等を含めて検討している最中だという。飲料メーカーや産業廃棄物回収業者、仲介業者などに合わせて、「乾かす」が今後はビジネスになることを訴求しながら、サーキュレーターエコノミーと一緒に実現できるパートナー企業を探している」と述べた。回収については、飲料工場以外に一般の業務店から回収できるように、コーヒーグラウンズをストックするための技術開発や実証実験に取り掛かっている。